

春期開催報告
第21回
Jリーグ
4月23・30日合併号掲載
第22回
ガンバ大阪
5月7日号掲載



アイテム しごとと探検隊 21th

アイテムしごと探検隊は「しごとの素晴らしさを伝えたい」という
私たちの思いから始まりました。
実際の職場に足を運び、そこで働く人の話を聞くことを通して、
しごとの大切さ、素晴らしさに出会ったり、
発見できることを願っています。

今回の訪問先

公益社団法人日本プロサッカーリーグ (Jリーグ事務局)

●隊員紹介(あいうえお順)●

- | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 青木くん(5年生) | 伊澤くん(5年生) | 今福くん(5年生) | 今福くん(6年生) | 笈川さん(5年生) |
| 大石くん(6年生) | 尾島くん(6年生) | 皆藤くん(5年生) | 北川さん(6年生) | 治部くん(5年生) |
| 清水さん(5年生) | 白崎くん(5年生) | 高橋くん(6年生) | 田畑くん(6年生) | 内貴さん(6年生) |
| 松尾くん(6年生) | 三谷さん(5年生) | 三谷くん(6年生) | 本橋さん(5年生) | 吉村くん(5年生) |

a.y.p アイテム・ユース・プログラム
アイテムは次代を担う子どもたちに
「しごと」のすばらしさを伝えていきます。

今回の探検先は…

公益社団法人日本プロサッカーリーグ (Jリーグ事務局)

東京都文京区のJFAハウス内に位置するJリーグ事務局。チェアマン室や約40人のスタッフからなるフロアを中心に企画・運営が行われている。同じビル内には、オフィシャルグッズを扱う「Jリーグエンタープライズ」、映像を管理する「Jリーグメディアプロモーション」など関連会社がある他、「日本サッカーミュージアム」もあり、全国のサッカーファンが日々訪れている。

●探検実施日：2012年3月26日(月)

緊張感いっぱい、探検隊スタート

Jリーグ事務局内の会議室。「アイテムしごと探検隊」に抽選で選ばれた20人の小学5・6年生の前に、大東チェアマンが現れた。「Jリーグの試合を見に行ったことがある人？」多くの手があがってチェアマンは「いいね」「好きなチームは？」チーム名は次々とあがるものの、声はとも小さい。「好きなチームが違うということは、住んでいる地域もいろいろなのかな？」
「だからおとなし
いんだね」。
集まった子ども
たちはほとんど
が初対面。チェ
アマンが感じた
通りみんなかな
り緊張気味だ。



Jリーグを支える！ サッカー大好き！プロ集団

ナビゲーターはフリーキックの名医

部屋の照明が落ちて、スクリーンに試合の映像が映し出される。フリーキックを次々と決める背番号17。映像に見入っていた子どもたちの前に、映っていた三浦淳寛さん本人が現れた。「僕も探検隊は初めてだから緊張している。一緒に楽しく過ごせるようにがんばろう」。昨年引退したばかりの三浦さんの言葉に、緊張が少しづつ解けていく。

放送を通して、サッカーを強くしたい

続いては、スカパー！でJリーグ中継の統括プロデューサーを務める金子さん。思い描いた番組に近づけるためスタッフに事細かに指示をするので、「嫌われているかも」と笑う。日本のサッカーが強くなるために、放送ができることをいつも考えていると言います。例えば、ゴールの成功失敗に関わらずシュート数を画面に表示。他局にはない独自の工夫だ。同点でも、どちらが優勢か一目でわかる。「視聴者にわかりやすく伝えるのも目標ですが、得点を常に意識する選手が増えることも期待しているんです」。



Jリーグを支えるアマチュア審判員

現在Jリーグで審判を育成している廣島さんは、ドイツのワールドカップで審判を務めたこともあるベテラン。現役の審判員だった頃は、高校の体育の先生でもあった。実はJリーグの審判員の多くはアマチュア。他の仕事をしながら、選手と同じピッチに立つために毎日のトレーニングを重ねている。現役時代の廣島さんも、サッカー部の指導を終えた後、1時間〜1時間半毎日走っていたそうだ。その後さらに競技規則の勉強やビデオでの試合研究。「僕の判定が試合の流れや選手の運命を変えることもある。自信を持って判定するためにも、勉強や研究は欠かせませんでした」。



「考えること」がうまくなるコツ

そしていよいよ、三浦さんからのお話。もとは野球少年だった彼、引越した機に小学4年生でサッカーを始めたそうだ。小さな頃からサッカーをしていたチームメイトに囲まれて、最初は一番下手だった。みんなに追い付こうと、家に帰っても一人で練習したという。そんな三浦さんが教えてくれたのは、「うまくなるコツは考えること」。



フリーキックの名手と呼ばれた三浦さんが蹴る球は、ゴールキーパーの手元でぐっと伸びた。「いわゆる『ブレ球』は高校時代のミスキックがきっかけ。失敗したはずなのにボールが不思議な動きをしたから、どうしてだろうと一生懸命考えたんだ。みんなも、自分で考えて、いろいろ工夫してみよう」。

目と心と愛情で書くサッカー記事

潮さんは、サッカー中心の取材を続ける朝日新聞の記者。大勢で作り上げるテレビ番組と違い、どのような記事を書くかは記者の判断に任されているという。同じ試合でも、どこに注目して何を感じるかは一人ひとり違う。それを伝えるために、どんな周辺取材をするかも違う。「見て感動する。そして考える。僕が使う道具はパソコンとノートとペンだけ、僕自身の『目』と『心』が一番大事だ。最近思うようになりま

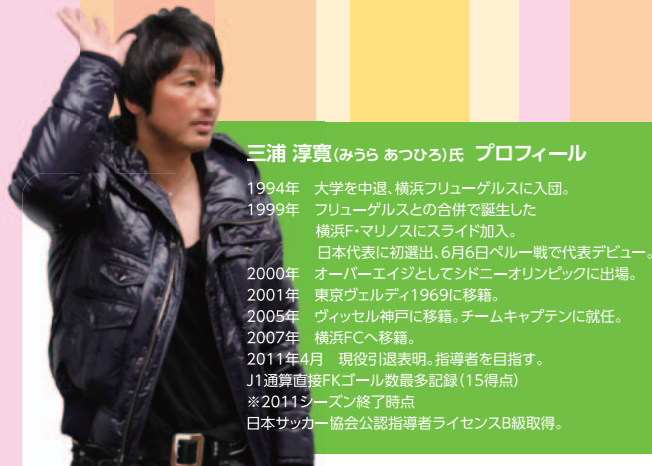
した」。
そして、もっと大切なのが『愛情』と続ける。「時には批判的な記事を書くこともあ
るけれど、それは、日本のサッカーが強く
なっているという愛情があるから
こそなんです」。



探検隊を満喫した子どもたち

続いて、「探検隊の隊長だよ」とヘルメットをかぶった事務局の樋口さんが登場。チェアマンルーム、Tシャツなどのグッズを扱うJリーグエンタープライズ、全試合の映像を管理するJリーグメディアプロモーションを案内してくれた。三浦さんと一緒にサッカーミュージアムを見学した後は、アイテム本社に戻った。

すっかり仲良くなった子どもたちは、班に分かれてディスカッション。一人ひとりが感じたことや心に残ったことを話し合い、最後はみんなの前で発表をした。「働くことは難しそうだけど楽しそうでした」「いろんな人が協力してるんだと思いました」など、いろいろ感想を聞かせてくれた。憧れの選手はもちろんのこと、報道や審判の仕事を通してサッカーに関わり続けている人たちの熱い思いに触れて、仕事の楽しさや面白さをしっかりとキャッチしてくれたようだ。



三浦 淳寛(みうら あつひろ)氏 プロフィール

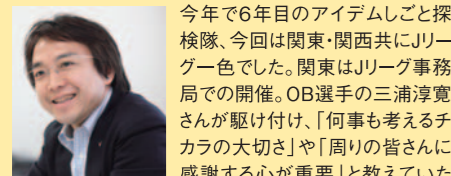
1994年 大学を中退、横浜フリューゲルスに入団。
1999年 フリューゲルスとの合併で誕生した横浜F・マリノスにスライド加入。
日本代表に初選出。6月6日ペルー戦で代表デビュー。
2000年 オーバーエイジとしてシドニーオリンピックに出場。
2001年 東京ヴェルディ1969に移籍。
2005年 ヴァッセル神戸に移籍。チームキャプテンに就任。
2007年 横浜FCへ移籍。
2011年4月 現役引退表明。指導者を目指す。
J1通算直接FKゴール数最多記録(15得点)
※2011シーズン終了時点
日本サッカー協会公認指導者ライセンスB級取得。



感想コーナー

- Jリーグの仕事の部屋やいろんなところに行けて楽しかった。うれしかった。
- Jリーグ関係の仕事をしている人たちが、いっぱいいることがわかりました。
- どんな仕事についていたとしても、いろいろな人の協力があってできているということをおぼれず、仕事に取り組みたいです。

公益社団法人 日本プロサッカーリーグ
競技・事業統括本部 事業部
アシスタントマネージャー 伊藤慎次さん



今年で6年目のアイテムしごと探検隊、今回は関東・関西共にJリーグ一色でした。関東はJリーグ事務局での開催。OB選手の三浦淳寛さんが駆け付け、「何事も考えるチカラの大切さ」や「周りの皆さんに感謝する心が重要」と教えていただきました。関西はガンバ大阪での開催で、本並健治さんがナビゲーターとして参加し、「しごとのプロ意識」と「情熱を持って取り組む事」がポイントだと伝えていただきました。さらに昼食時には、遠藤選手、加地選手ほか、松波監督も子ども達に大切な言葉を掛けてくれ、子ども達の眼が和らぎ、輝いたのが印象的でした。

●「アイテムしごと探検隊」ご協力をお願い

訪問先としてご協力いただける企業・団体を募集しています。子どもたちが「仕事」について考える機会を一緒に提供していただけませんか？

お問い合わせはアイテムまで
TEL 0120-938-989

